



明海大学

浦安キャンパス

同窓会会報

編集／会報発行担当
発行／浦安キャンパス同窓会
URL <http://www.meikai.com/>

新会長あいさつ

明海大学浦安キャンパス同窓会

会長 北原 淳



本会発足以来11年間にわたり会長を務めていた金子裕介氏から引き継ぎ、本年度より、浦安キャンパス同窓会会長を務めさせていただくことになりました。ここに報告とご挨拶をさせていただきます。

一期の卒業生である私は、明海大学生時代に強いバイオニア精神を培うことができました。この精神を軸に持ち、大学と同様、同窓会も常に挑戦し、とどまることなく進化し続けていくものになりたいと考えております。

これまでの活動は、同窓会における仕組みづくりに労を費やしてきました。今後はその仕組みを活用し、より充実した事業の実行と実現に力を注ぎこんでいく所存です。そういう意味では、会の創世期から次の段階へ進んだともいえるでしょう。

卒業すると大学の存在は遠くなってしまいがちですが、同窓会があることで明海大学が身近に感じられるような事業を展開していきたいと思っております。

設立10周年を控えて

緑風会代表 本間 勝

明海大学不動産学部卒業生で構成する支部の「緑風会」は、来年度で早くも10周年を迎えます。

全く何の前例もない名実共に一からのスタートを切ったのが1996年3月、不動産学部1期生の卒業式の日であり、一期卒業生ならびに故・石原舜介初代不動産学部長を始め、多数の教員にお立会いいただき、投票により「緑風会」と命名されました。この名前の由来には、日本の街づくりが我々卒業生によって緑豊かで心地よい風が吹く街になるように、との願いや明海大学の所在する新浦安地区が20世紀の街づくりにおける、ひとつの具現化した街として、その地で我々卒業生が学んだ証し、という意味が込められています。

お蔭様で組織も形成され、来年は明海大学卒業生であれば参加可能な不動産業者間交流会である「不動産緑風会」の旗揚げを控えております。これによって、卒業後の不動産業ネットワークを形成し、業界をリードする集まりとなるよう期待しております。

今後とも、明海大学卒業生、皆様のご支援の程を、宜しくお願いたします。



「明英」設立にむけて

「明英」英米語学科支部

代表 塩谷 正

浦安キャンパス同窓会の皆様、はじめまして。英米語学科支部「明英」の代表を務めます塩谷正と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「明英」支部は、同窓会と英米語学科卒業生をつなぐ窓口だけでなく、それぞれが多くの人とのつながりをもてる場にしたいと思っております。というのは、わりと身近なところに卒業生の貴重な人脈があり、それをみんながうまく活用できたらどんなにすばらしいかと、将来像を思い描いています。具体的な数字をあげると、昨年3月に第13期生が加わり、英米語学科卒業生の総勢が2935名になりました。今、私たちの仲間は社会の各方面で活躍しており、なかには海外で生計を立てている人もいます。もともと明海の輪を広げたい、それも身近なところからまずは、同期生や職種が同じ人たちの交流から始めて、そして大きな輪にしていきたいと思っております。皆さん、ぜひ参加してください。

最後に、支部役員として活躍したい方、作業に手を貸してくださる方を大募集します。

mei@meikai.co.jpまでお知らせください。また、意見や質問もお待ちしております。



ここに来れば懐かしい顔に会える 2004年度浦安キャンパス同窓会パーティー (2004・11・7)

2004年度の同窓会パーティーが、11月7日に明海大学浦安キャンパスのレストランニューマリンスで開催された。

会場には卒業生約280人と先生方、大学職員などが集まり、熱気いっぱい。今年もフリーアナウンサーの河田京子さん(3期生・中国語学科)が司会・進行を務め、パーティーを盛り上げた。

まず、北原淳同窓会会長のスピーチでスタート。「卒業してしまおうとどうしても、大学に顔を出す機会が減ってしまいがちです。こうした集まりを開催することが、明海大学を思い出されるきっかけになることを願っています。お子さんを連れて参加される方も多くなり、大変和やかな雰囲気になっていると感じています。今日はどうぞ楽しんでいただきたいと思います」と開会の言葉を述べた。

続いて高倉翔学長が、「皆さんの里帰り、心から歓迎します」とあいさつ。「よ



北原 淳会長



高倉 翔学長

く言われるように、名前と国籍は変える事ができますが、自分が卒業した大学は変えることができません。皆さんが明海大学の卒業生という看板を背負い、活躍していることを大変嬉しく思います」と温かい歓迎の言葉をいただいた。

そして来賓の横濱孝雄教育後援会会長が、「明海の歴史を作っているのは同窓会だと確信しています。これからは、大学、同窓会、教育後援会が三者一体となり発展していきたいと願っています」、さらに、藤山ゆり子学友会会長と吉田美幸学園祭実行委員会委員長が「学園祭も開催していますので、どうぞご覧になってください」と、スピーチした。

乾杯の発声是小泉允園副学長が行った。「この同窓会も年々メンバーが増え、活発な活動をしていただきありがたく思っています」とあいさつし、来年4月には現在の3学部に加え、日本初の「ホスピ



小泉 允園副学長



司会の河田 京子さん

タリティ・ツーリズム学部」が加わることを報告。「4学部体制となり、明海大学がより一層多くの方々に認知されるよう、教職員もがんばっています。どうぞ先輩の皆さんも、社会に明海大学の名を世に広めて頂き、広く認知されるよう、よろしく願います」と話した。

次いで「課外活動団体15周年功労」の表彰が行われ、北原会長から、今年15周年を迎えた吹奏楽部部長の川瀬健太郎さんへ表彰状が手渡された。川瀬部長は部員の確保や、練習場所の確保に苦勞してきたが、練習に励んできた結果をこのように表彰していただけて幸いです」と表彰の喜びを語っていた。

その後、おいしい料理を楽しみながら、

吉田 美幸学園祭実行委員



藤山 ゆり子学友会会長

和やかな歓談タイムに入り、先生を囲むの昔話や、クラスの仲間やサークルの仲間とのおしゃべりに、大いに盛り上がっていた。

途中、司会の河田さんが参加者へマイクを向けインタビューを行なった。その中で、英米語学科卒業生の支部が発足準備中であることが明らかになった。

北原会長は、「同窓生といっても、なかなか会う機会がないと思います。このパーティーが1年に一度、みんなが集まる場となってくればうれしいです。サークルやゼミのOB会として利用している人たちもいると聞いています。明海祭も開催しているので、気軽に参加してほしい」と、感想を話していた。

参加者に聞きました



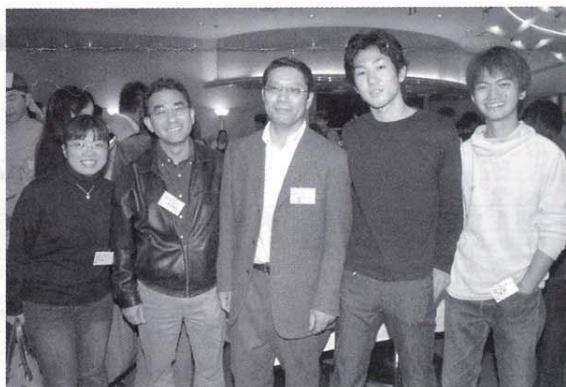
下田直樹教授（左）と一緒に

●先生、お久しぶり
「下田先生は学生に人気のあった先生なので、今も大学にいてくれてうれしいです。就職支援のためのキャリアサポートセンター長になられたそうで、元教え子として鼻が高いです。先生、がんばってください」
「今年3月に卒業したばかりです。白野先生のゼミ生でした。このゼミを選んだ理由ですか？ もちろん、先生が好きだからです！」



吹奏楽部部長・川瀬健太郎さん(右)
左は顧問の田中典子教授

「君は成績優秀だったのに、就職できなかったんだよねあ」
「もっと、人間を磨きます」



白野伊津夫教授（左から2番目）を囲んで

●パーティーで近況報告
「普段から友達と連絡は取り合っていますが、最近はみんな忙しくて会えるのは1年に一度、このパーティーだけ。参加するのが恒例の行事になっています」
「子どもが生まれると、どうしても学生時代の友達に会う機会が減ってしまいます。でも、ここなら子連れで来ても安心。みんなに子どもの成長を見てもらえます」



インタビューにご協力いただき ありがとうございます

●皆勤賞です
「1期生で、毎年来ています。皆勤賞です。仲間と連絡を取り合って、みんなに参加しています」
「99年卒、2回目の参加です。前回よりも参加者が増えてにぎやかになりましたね。もっと友達に会えるかと思ったのですが」
「できる限り参加しています。みんな昔とそんなに変わっていないし、卒業年度は違って、入りやすい雰囲気です」



●実行委員のみなさん、ありがとうございます
「できるだけ参加したいと考えているのですが、転勤で関東を離れていたのですが、3年振りです。いろいろな都合で参加できない年もあるかも知れませんが、こういうイベントはずっと続けてください」
「いつも楽しいパーティーを企画してくれる実行委員の皆さんに感謝しています。来年も楽しみにしています」
「最初だけでも卒業年度ごとに集まってみたいでしょう。参加者が多いので、同期生に出会えなくて残念です」



宴会もたけなわ。赤い顔もチラホラ！



インタビュー

第17回明海祭

大きな「花」が咲いた
3日間。



ンテイクマーケットには、多くの地域住民が参加して祭りを盛り上げ、また、恒例のスピーチコンテストやオープンキャンパスも行われ、大学見学に訪れた受験生の姿も多く見られた。

学生、教職員、地域住民それぞれが楽しみ、見事に大きな花を咲かせた3日間だった。

職業体験講演会

学園祭初日の11月5日(金)に、学園祭本部企画「職業体験講演会」が行われた。

一部は日本語教師として活躍している卒業生が、二部はフライトアテンダントとして活躍している卒業生が講師となって講演を行った。

11月5日から7日までの3日間、浦安キャンパスで第17回明海祭が行われた。

今年のテーマは「花」。根・茎・花びらがそれぞれががんばり、互いを支え合うことで、一輪の綺麗な花を咲かせるように、明海祭も教職員や地域の人たちそして参加してくれるすべての人たちと共に素晴らしい明海祭を創ってほしいという思いが込められている。

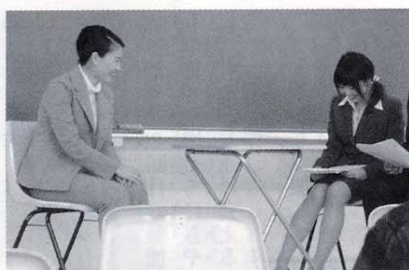
本部企画のバイサイドライブには、話題の「FLOW」が出演。最終日7日には「アンジャッシュ」や「長井秀和」など、話題の芸人が出演するお笑いライブが開催され、大変な人気だった。

屋外の特設ステージでは軽音楽部の演奏や極真空手部の演武などが繰り広げられ、講義棟内でもさまざまな団体が展示発表を行った。キャンパスには模擬店が並び、中でも韓国留学生会や中国語学科学生による模擬店は、本場の料理が味わえるとあって長い行列ができていた。ア

司会者の進行により、スミスさんの講演が始まる。まず、「授業で必ず貼っておくのは、世界・日本地図と五十音表」「初級クラスに教える場合は、机をコの字型に並べて、先生側に垣根を作らないようにする」「留学生の多くは聴解力が弱い」「学生の日本語習得は、読解力がある学生の方が早い」など、まさに現役の日本語教師ならではの話を聞かせてくれた。また、各国留学生ときちんと議論をするためにも、「戦争を含めた歴史



一部講師：日本語教師 スミス幸世さん
略歴：高校卒業後、日本語学校に就職。さらに勉強すべく、働きながら明海大学外国語学部日本語学科、明海大学大学院応用言語学で学ぶ。現在横浜にある秀峰国際学院で日本語教師として勤務中。



二部講師：
フライトアテンダント 高橋由季さん
略歴：明海大学外国語学部英米語学科卒業、在学中よりフライトアテンダント養成専門学校にて学ぶ。現在、ANAにて主に国内線フライトアテンダントとして勤務中。

的事実の把握」は重要であるとの話もあり、印象的だった。その後、明海生時代に、どの授業がためになったか、どの先生の教え方がよかったかなどの裏話や、就職先の選び方についてのアドバイスなど、集まった学生も熱心に耳を傾けていた。最後の質疑応答は時間一杯まで質問が殺到し、すべての質問に的確に答えていた。スミスさんはとても穏やかで丁寧な話し方をされる方で、すっかり話に引き込まれてしまい、夢中で聞いているうちにあっという間に1時間が終わってしまった。



休憩を挟んで、高橋さんの講演が始まり、まず、フライトアテンダントに興味を持った経緯や、ダブルスクールの話などを聞かせてくれた。その後持参した写真をもとに、教室のテレビを使い現在行っている仕事の話をした。勤務の様子や、実際のフライトスケジュールなどを映像でわかりやすく説明し、学生たちは食い入るように見入っていた。勤務について、「精神的にタフでなければやっていけないのですが、辞めたいと思ったことは一度もないんです」と力強く話していたのが印象的だった。その後、在学中にするべき勉強の方法や、英検・TOEICなどの資格について具体的なアドバイスがあり、また、わかりやすかった授業や忘れられない恩師の話もあった。最後の質疑応答では、やはり時間一杯まで学生たちの質問が殺到し、改めてフライトアテンダントは人気職種であると実感した。高橋さんは、終始キレイな笑顔を絶やさずハキハキと話し、聞いている私たちが元気になる講演内容だった。

2003年度明海大学浦安キャンパス同窓会決算書

セキュリティの関係上、インターネットには公開いたしません。
同窓会会員でご覧になりたい方は直接事務局までお問い合わせ下さい。

2004年度明海大学浦安キャンパス同窓会予算書

セキュリティの関係上、インターネットには公開いたしません。
同窓会会員でご覧になりたい方は直接事務局までお問い合わせ下さい。

同窓生からのたより

中澤泰介（2002年度・不動産学科卒業）

あるヒトツの偶然から

出会いは偶然か必然か。学生時代にサマザマな人々に出会い、成長していった。その中でも、親交の深かったひとりの友人とのエピソードを。

私の誕生日。職場に掛かってきた一本の電話。それは、学生時代お世話になった大学出入り業者のヒトだった。電話の内容はこうだ。「同窓会報で『同窓生からの便り』というのがあるんだけど、中澤君書いてくれる？ 締め切りは3日後」

翌日、私はその業者のヒトと会い原稿を書くコトを了承。そして、締め切りを1日延ばすことにも成功。話を伺うと、業者のヒトが大学にある同窓会事務局に行き、事務局員と話している時に私の名前が出たらしい。こうして、急な原稿依頼が私のトコロへ…。

同窓会事務局で私の名前が出たのもナニかの縁だろう。業者のヒトは、私の近所にある地元ではちょっと有名な会社に勤めている。

学生時代、私はVOICE・M編集委員会（旧：新聞委員会）に所属していた。大学のイベントでしばしば顔を合わせていた。私が所属する委員会



学園祭実行委員会に所属していた。一年生の終わりに、彼が実行委員を辞めると言うので強引にVOICE・Mに入部させた。彼にはイロイロな面で助けてもらった。編集作業で部屋に泊り込んだり。カメラ片手に取材に行ったり。そして、彼はいつも「中澤君、鼻毛が出てるよ」と指摘してく

の委員長になると、取材相手を紹介したり、私の就職の相談にのっていただいたりした。

この前も、私がバイトをしている雑誌編集部で、私の地元を取材するコトになった時、このヒトを通して地元で詳しい人を紹介してもらった。「いい取材ができたよ」と担当編集者が喜んでいたので、いままでもない。

このヒトには、大学を卒業してからもお世話になっている。だから急な原稿依頼も引き受けた、という訳。

と、まあ、いい機会だから学生時代のひととの縁についてしみじみ考える。

VOICE・M編集委員会で一緒に活動していたK君。彼とは、大学入学当初からの付き合いだ。彼は一年生の時、

そういえば、部屋に彼と私しかない時、腕ずもうでどちらの腕力があるか競おうという事になった。Ready Go!の瞬間に部屋のドアが開き、先輩が入ってきた。その光景を見た先輩が、私達二人がデキているのではと疑うようになった。念のために書いておくが、二人はそのような関係ではない。



それを裏づけるエピソードが、彼に初めて連れていかれた「合コン」だ。しかも相手は韓国女性。彼には今の韓流ブームが来るコトがわかっていたので、う。先見の明ありすぎデス。しかもチェ・ジウ系の美女達ばかりで…（というのはウソです）。特に盛りあがるコトもなく合コンは終了。これが今から4年前の出来事だ。時が経つのはナンて早いのだろう。

大学を卒業する直前に、二人ファミレスで将来のコトについて話していた。二人とも就職が決まっておらず、漠然とした不安がボンヤリと漂っていた。卒業後、私は半年かかって今の職場に（これも学生時代の人の縁で入る事に）。彼は、浦安で社員目指して、アルバイトとしてある店で働き始めた。その後も、連絡を取り合い時間が空いたら、メシを食ったり、酒を飲んだりしていた。お互いに職場でのグチャや相談事を話したりしている。

昨年の10月。彼も地元での就職が決まり、実家に戻るコトに。彼が実家に戻る前日の夜。彼と親交の深かった3人が集

まり、浦安の居酒屋で閉店直前まで飲んでいた。お店を出て、これでお別れになる時、彼の目が潤んでいるように見えた。ナンだカンだといっても別れはツライ。近くにいないと寂しいものだ。4年間一緒にいた相棒である。彼がいなかったらVOICE・Mを作り続けてはいなかっただろう。確実にいえるのは彼と一緒に、VOICE・Mを作っていた時間。それは貴重な時間だった。一緒に成長していた時間でもあったのだろう。

時々思う。明海大学に入学していなかったら。不動産学部で学んでいなかったら。VOICE・Mに入っていなかったら…今の私は存在していなかっただろう。人と人が出会うコトで人は成長を続ける。これからはイロイロな出会いをしていくのだろう。そのひとつひとつを大切にしていきたい。

住所変更等は事務局までご連絡を

ご自身の連絡先に変更があった場合や音信不通になっていた友達の連絡先などが分かった場合は、事務局までご連絡ください。また、祝電の依頼も受付しています

TEL. 047-355-5112 FAX. 047-355-2871
メール dosokai2@meikai.ac.jp

地区連絡会

＜東北地区連絡会＞

5月8日、ホテルJALシティ仙台で9名の会員と4名の理事・事務員が参加した東北地区連絡会が開催された。昨年度の静岡、新潟に続き、地区連絡会としては3箇所目に当たる。最初に平松副会長より、現在の大学の近況報告や、地区連絡会の意義などが説明され、その後各自紹介を経て懇談となった。参加会員は、それぞれ特徴のある仕事をしている方が多く、勤務先のホームページをプロジェクトで投影して説明したり、所在地を地図で確認したり、仕事の裏話などで盛り上がった。会の最後には、東北地区



連絡会の代表者が決定され、全員一致で高城圭一氏（1期英米）にお願いすることとなった。

＜近畿地区連絡会＞

12月4日、ホテルグランヴィア大阪で

6名の会員と5名の理事・事務員が参加した近畿地区連絡会が開催された。季節外れの台風と渋滞が重なり、開始時間が大幅に遅れるというハプニングもあった。やや遅れて平松副会長より、同窓会の活動報告や挨拶がなされた後、各自自己紹介を経て懇談となった。全員揃ったのが遅かったためか、最初は堅苦しく食事をしていた皆様も、お酒がすすむにつれやわらかい雰囲気になり、会員同士のご夫婦やお子様も3名いたこともあって、アットホームで和やかな会となった。そして、会の最後には近畿地区連絡会の代表者が決定さ



れた。譲り合っても見られなかった。最終的に小林重紀氏（1期経済）にお願いすることとなった。
*写真は全て近畿地区連絡会。



「課外活動支援に関する懇談会」開催

同窓会として、課外活動をする現役の学生に対して「何」をしてあげられるのか。現状と要望を聞く懇談会が、7月5日（月）新浦安で行われた。

同窓会からは、本間勝、佐藤幸恵、宇津木暢応の各理事が出席。大学側からは学事課の鈴木主幹に同席いただき、各団体の代表者10人が出席した。

まず、同窓会で学生活動支援を担当する本間理事が、在学生が入学したときに同窓会費を納め、同窓会の準会員であることを説明。その後同窓会活動について話した。私たちの活動は卒業生に対して行うだけでなく、母校の発展のために在学生に対しても支援、協力をしています。通常の会議でよく言われることは「学生の顔が見えない」ということで、皆さんがどのような活動をしているのかかわらないということ。現在同窓会として金銭的な援助をしていますが、ただそれだけで終わってしまっている。1期生も30歳を過ぎ中間管理職になっている人も徐々に増えてきて、そのような人から自分たちが大学に何か協力できることはな



いか」との言葉も届いています。正にこれから皆さんに対して卒業生が何かしていかなければならない時期にきています。

まずはこのような懇談会を開き、交流を深め、活動内容や問題点を教えていただき、私たちに協力できることであれば100%協力したいと思っています」。

鈴木主幹は「皆さんには多くの先輩たちがいます。皆、母校の発展を願っており、皆さんの声を聞いて、このたび同窓会では新しい展開を図ろうとしています。今日のチャンスを活かして皆さんが考えていることを同窓会理事の方々に素直に話してください」とあいさつされた。

その後、各団体から現状とこれからの展望について話がいった。

学友会会長の藤山さんからは、ホームページを利用して企画に対してのアドバースをしてもらいたい。同窓会の会報をキャンパス内に設置し閲覧できるようにできないか。また、同窓生による就職に対しての経験談や講演会開催を企画検討していると説明。このほか、卒業パーティー実行委員会、卒業アルバム制作委員会、学園祭実行委員会、体育会連盟、学術文化連合会、Voice・M編集委員会、留学生連合会から活動報告と要望がだされた。

約2時間30分に及ぶ懇談会の中で、在学生は金銭面だけではなく、同窓生から様々な意見やアイデアを望んでいることがわかり、理事会を通し今後も意見交換を行っていくことを約束し幕を閉じた。

就職支援セミナー

就職支援セミナーに課題残る

去る6月12日(土)午後1時から、同窓会主催第3回就職支援セミナーが開催された。

このセミナーは、学内でOB・OG訪問ができるという特徴があり、就職活動を開始する在学生にとつては先輩からの生の声と直接指導が受けられる絶好の機会となっている。また、本学就職指導課の主催による就職セミナー後の開催で、学生が参加しやすい日程を設定した。

しかしながら、本年は特に参加学生が少なく、大変不本意な結果となった。この要因は、開催時間等の設定に若干工夫が足りない、PRが足りなかったという要素も多少は考えられるが、一番の大きな要因は学生の就職に対する意識が非常に希薄である、ということが挙げられる。日本経済は若干景気が回復基調にあるとはいえ、依然として新卒採用が厳しい状況にあり、このような時にこそ十分な就職対策を行うことが肝要だが、学生自身にはまだその危機意識があまり芽生えていないように思える。また、就職浪人をするに對する抵抗感が無いこと、フリーターで生活することが長期的な視点で見た場合、本人にとって重大な人生の落とし穴に直面する可能性が高いことに對する危機感が無いことを非常に感じる。OB訪問をする、面接での確に受け答えをする、などといった就職や社会人になるための基本的な事項もわからない学生も目立つ。これについて、大学も継続的にあらゆる策を講じている状況だ。

仕事の合間を縫って出席された卒業生の方々からも同様の感想が聞かれ、同窓会役員や出席した卒業生が再認識させられた皮肉な結果となった。

しかし、このような実態がわかったことは大きな収穫でもあり、現状に対し、キャリアサポートセンター(旧就職指導課)と密に連携をとり、対策を講じるためのバックアップの必要性を感じる本年

2004年度学友会サマーキャンプ

9月2日(木)～4日(土)までの3日間、栃木県の鬼怒川温泉で行われた。

このサマーキャンプは、本学で学んでいる日本人学生、外国人留学生、教職員など、明海大学で生活するすべての人々がひとつになり、相互理解と交流を目的としている。今年も、『未来の明海大学』というメインテーマのもとに、明海大学をよりよいものにするための4つのテーマに分かれ、本学をどのように発展させていくかについて意見交換を行った。

参加者は、教職員、日本人学生、外国人留学生、教育後援会役員、また、同窓会役員としてからは佐藤幸恵理事、宇津木暢広理事が参加し、総勢257名になった。同窓会を代表して佐藤理事が「卒業生が現役の学生に對して何ができるのか、ということと今年度の事業計画の中に学生支援という分野を設けました。サマーキャンプを通じて皆さんと共に明海大学のために何ができるのかを考えたいので、希望を含め気軽に声を掛けていただきたい

の就職懇談会となった。

就職対策について、卒業生の皆様からお力を貸して頂きたいと願っております。

*

〈就職支援セミナーにご参加いただいた会員〉

一色栄一、今村絵里、片桐紀博、木藤如美、齋藤豊、佐藤泰治、椎名邦之、富田和孝、野津友厚、土生健二、山下英之50音順・敬称略

い」と挨拶した。

この後「日本人学生と留学生と教職員の交流」、「学友会を身近に感じるには」、「施設について。現在ある施設の改善案・新施設建築案」、「昨年度話し合われたが改善されていないマナー」の4つのテーマに分かれ分科会が行われた。

参加した宇津木理事は「学生たちは意見や質問など積極的に進んでいて、いけば大学も良くなると思う」。

振り込み詐欺について(お知らせ)

最近、「暴力団とのトラブル」、「交通事故」、「明海大学での成績不振」等を装った振り込み詐欺が頻発しております。特に父母や本学の教員宅への電話によるものです。不審な電話にはすぐに対応せず、本人への確認や、警察に相談するなど冷静に対処してください。本人確認の際は、大学で講義を受講しているケースもありますので、ご連絡ください。

コンテンツ概要

1. ニュース 同窓会地区会、パーティのお知らせ。ここをチェックしてお得なイベントにどんどん参加を!
2. イベント 同窓会地区会やパーティなどのレポートなどが掲載されていますので、参加出来なかった方も掲載されている写真から友人を探すことも出来るかも。
3. 大学情報 最新の大学情報や最近の浦安近辺の情報をみる事ができます。
4. 会員紹介 同窓生へのインタビューを掲載。今後は毎月更新されます。インタビューへご協力頂ける方もここで募集しています。近況をお友達や先生方にお知らせするにはもってこいの場です。最近ではここからOB/OG訪問の情報を得る学生さんも多いようです。



同窓会ホームページより

携帯電話やパソコンから会員情報変更依頼が可能に!

皆さんご存知でしょうか? 同窓会のホームページでは、大学の近況や卒業生インタビューなどの情報が毎月アップデートされています。さらに、HPから住所や改姓の届けも行えるようになり、各種変更届けが簡単にできるようになりました。

お友達で「会報が届かない」という方がいらっしゃったら、こちらから住所変更などを行うように教えてあげてください。また、このシステムは最近オープンした携帯電話用のホームページ(アドレスはパソコンと同じhttp://www.meikai.com/)からも利用する事ができます。QRコード対応のカメラ付き携帯電話の方は、上記QRコードを携帯電話のカメラで読み取ることでそのままアクセスする事が可能ですので、どんどんアクセスして下さい!

編集後記

●昨年一年を振り返ると暗い思いになる。異常気象から全国各地で災害が起こり、特に新潟県の人々は水害や大地震にたい大きな被害をうけた。被災された皆様にお見舞いを申し上げると共に、今年も明るい話題の多い年になればと思う。(S)